

健苗とこまめな水管理で初期生育を確保!

－ 技術のポイント －

- 品質・収量を安定させるため、耕うん・代かき作業は丁寧に行う
- コシヒカリは5月10日頃の好天日に田植えを行う
- 移植前追肥(べんとう肥)の実施で活着を促進する
- 地力の条件に応じて栽植密度、植付本数をほ場ごとに調整する
- 活着までは保温的深水管理で植え傷みを抑え、その後は浅水管理で分けつ発生を促進する
- 除草効果の確保と薬害の発生防止のため、除草剤は適正に使用する

1 丁寧な耕うん・代かき作業 ～根域確保と水もち確保～

- 乾いた状態で丁寧に耕耘すると耕深が一定となり、均一な生育の確保につながります。
- 作土深15cmを目標に深耕を心がけましょう。深耕で作土が深くなると根域が広がり、根量が増加することで、倒伏に強く品質、収量が安定します。
- 代かき時の水位は、節水、浮きワラ対策等のため、田面の高い部分が十分みえる程度の浅水としましょう。
- 水持ちの悪いほ場では、代かきを行う回数を1回増やすなど入念に行いましょう。ただし粘土質土壌などでは、酸素不足にならないよう練りすぎに注意しましょう。
- ※ 基肥一発肥料(コーティング肥料)では、近年、マイクロプラスチック汚染が問題になっています。落水する際は、水尻にネットを設置するなど可能な限り除去するようにしましょう。

2 適期田植え ～植え傷みは少なく、早期活着を目指そう～

- コシヒカリの極端な早植えや遅植えは、収量・品質が安定しません。また適期でも強風など悪天候での移植は、植え傷みにつながります。



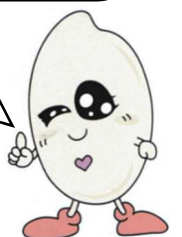
品質・食味の高い「岩船米」を生産するため、早生は5月1日頃以降、コシヒカリは5月10日頃の好天日に田植えを行いましょう。

- 密植や大苗にすると過繁茂しやすくなり、倒伏や乳心白粒の発生を助長します。
- 深さ2～3cmに植え付け、早期活着、良質茎確保により品質は向上します。



1株 3～4本植え、コシヒカリの栽植密度は50株/坪(低地力ほ場では60株)、早生品種では60～70株/坪を目安に地力等の条件に応じてほ場ごとに調整し、2～3cmの深さで植えましょう。

- ① 田植えの4～5日前に箱当たりチッソ成分1～2gの移植前追肥(べんとう肥)を実施し、活着・初期生育を促進しましょう。
- ② いもち病が発生しやすい地域、品種では必ず育苗箱施用剤による葉いもち予防を実施しましょう。



3 田植え後の水管理 ～初期生育確保の最重要事項！～

○ 田植え後間もない時期は、稲にとって大変不安定な状況です。早めに活着させ初期の分げつを確保するようにしましょう。

☆ 植え傷みを防止し、初期生育を早期に確保するためには？

- ① かん水は早朝に行い、日中は止め水として水温上昇と保温に努める。
- ② 活着まで（田植後7～10日）は、やや深め（3～4 cm）の水管理で苗を保護する。
- ③ 活着後は、浅水管理（2～3 cm）で水温上昇を図り、分げつの発生を促進する
- ④ 低温や強風の時は、一時的に深水にして苗を保護する。

4 用水の更新（夜間落水）で根の健全化を！ ～ワキ防止対策～

- 稲わらを春すき込みしたほ場、有機物を施用したほ場では、気温の上昇に伴いワキ（メタンなどのガス）が発生し、根腐れなどを引き起こします。
- 用水の更新（夜間落水）などでガス抜きを行い、根の健全化に努めましょう。

ワキの発生程度とその対策

ワキの程度	ワキの発生程度	水稻生育への影響	6月上旬までの対策 注)
少	水田に足を踏み込むと僅かに気泡の発生がみられる。	なし	—
中	水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い。	根の活力低下	用水の更新（夜間落水）
多	水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する。	根張り不良	用水の更新を繰り返す
甚	晴天時自然に気泡を発生し、音が聞こえる。また水田を歩くと著しく気泡を発生する。	根の伸長阻害、地上部黄化	間断かん水

注) ただし、用水が不足する場合、落水は最小限とし、節水を心がける

5 雑草防除 ～除草剤の効果を最大限に発揮して効果的な防除～

- 耕起前のスズメノカタビラ等畑地雑草は、通常湛水することで自然と消滅するが、大型化したものは残る場合があります。丁寧に耕耘し、すき込むようにしましょう。また雑草を多量にすき込んだほ場では、ワキが発生しやすくなるのでワキ対策を徹底しましょう。
- ほ場条件・対象雑草に合った除草剤を選び、注意書き（使用時期、使用量、使用方法など）を良く読んで、正しく使いましょう。
- (1) 丁寧な畦塗りや代かきで漏水を防止し、田面を均一にしましょう。
- (2) 初期剤は、河川等への流出を防ぐため、田植え時または田植え後に散布しましょう。
- (3) 雑草の葉齢をよく確認し、散布適期の範囲で早めの散布を心がけましょう。
- (4) 散布後は、剤にあわせた水深（粒剤は3～5 cm、フロアブル剤は5 cm程度、ジャンボ剤・豆つぶ剤は5～6 cm程度）を確保しましょう。処理後7日間は止水（落水、入水を控える）とし、4～5日間は湛水状態を保ちましょう。

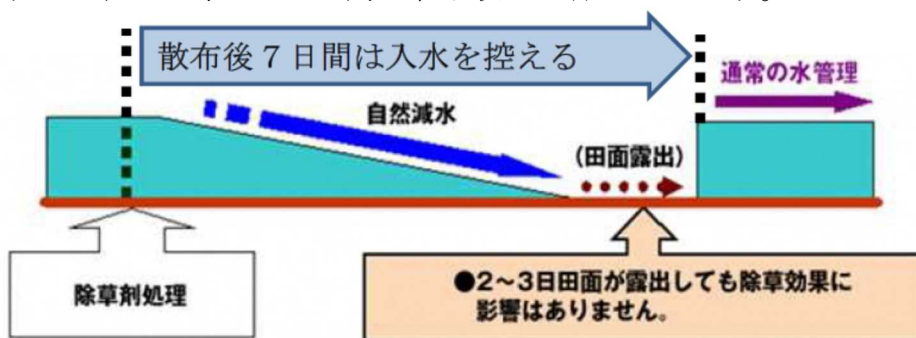


図 除草剤散布の水管理イメージ